

# 令和6年度シラバス

(Iコース3年理系)

日本大学東北高等学校

## 目 次（Iコース3年理系）

学校シラバス	…	1	
Iコース3学年教育活動シラバス	…	2	3
実践国語（現代文）	…	4	6
実践国語（古典）	…	7	10
地理総合	…	11	13
数学Ⅲ	…	14	17
数学C	…	18	20
実践物理	…	21	24
実践化学	…	25	29
実践生物	…	30	33
体育	…	34	37
英語コミュニケーションⅢ	…	38	41
論理表現Ⅲ	…	42	44
情報Ⅰ	…	45	47
総合的な探究の時間	…	48	50

## 学校シラバス

### 校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

### 本年度の努力目標

1. 奉仕と思いやりの心を持とう      2. 新校舎を大切に学ぼう      3. 自ら学び、考え、道をひらこう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。</li> <li>2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。</li> <li>3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。</li> <li>4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。</li> </ol>
国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。</li> <li>2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。</li> <li>3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学研修を実施する。</li> </ol>
自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。</li> <li>2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。</li> <li>3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別指導を実施する。</li> <li>4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。</li> <li>5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。</li> </ol>
学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。</li> <li>2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。</li> <li>3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。</li> <li>4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。</li> <li>5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。</li> </ol>
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。</li> <li>2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。</li> <li>3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。</li> <li>4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。</li> </ol>

I コース 3 学年 教育活動シラバス

月	指 導 内 容 等	指 導 の ね ら い
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 学期始業式・対面式</li> <li>・ ①体育クラス強化部集会</li> <li>・ 服装頭髪指導</li> <li>・ 登校指導・自転車安全教室</li> <li>・ 春季特別授業</li> <li>・ 後援会紙上総会, 学級懇談会</li> <li>・ 基礎学力到達度テスト</li> <li>・ 個人面談</li> <li>・ ①進路希望調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校 3 年生への切り替え</li> <li>・ 生徒の自律, 自覚指導</li> <li>・ 規範意識の高揚</li> <li>・ 登校時の安全指導</li> <li>・ 基礎学力到達度テストへの最終確認</li> <li>・ 保護者との連携</li> <li>・ 学力向上への啓蒙</li> <li>・ 精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握</li> <li>・ 進路を考える「力」の育成</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒総会</li> <li>・ 自転車安全教室</li> <li>・ 春の交通安全登校指導, 自転車点検</li> <li>・ ①参観授業</li> <li>・ 進路ガイダンス『志望理由書』</li> <li>・ 1 学期中間試験</li> <li>・ 下宿訪問</li> <li>・ スマホ安全教室</li> <li>・ 身だしなみ向上週間</li> <li>・ ①英検</li> <li>・ ①基礎学対策模試</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動への自主的参加</li> <li>・ 自転車の運転に関するルール・マナーの確認</li> <li>・ 登校時の安全指導</li> <li>・ 授業を公開し保護者との連携強化する</li> <li>・ 受験を見据えた準備</li> <li>・ これまでの学習及び学力定着の確認</li> <li>・ 下宿生に対する生活指導</li> <li>・ スマホ使用に関するルール・マナーの確認</li> <li>・ 自己管理の徹底</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ 進学に向けた学力向上を図る</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衣替え, 身だしなみ向上週間</li> <li>・ ①校内体育大会</li> <li>・ ①学校生活アンケート</li> <li>・ ①献血</li> <li>・ ①漢検</li> <li>・ ①数検</li> <li>・ 1 学期期末試験</li> <li>・ 校外補導</li> <li>・ 保護者対象進学説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の変化の意識と、自己管理の意識付け</li> <li>・ 体育行事を通じて、級友と一致団結を図る</li> <li>・ 生徒の悩み等の把握</li> <li>・ 公共心の涵養、ボランティア体験</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ これまでの学習及び学力定着の確認</li> <li>・ 校外の風紀を守る</li> <li>・ 保護者と連携し、進路指導態勢と整える</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカシヤ祭</li> <li>・ 進路ガイダンス『入試の仕組み』</li> <li>・ 三者面談</li> <li>・ 基礎学対策模試</li> <li>・ 芸術鑑賞会</li> <li>・ 1 学期終業式</li> <li>・ 夏季進学補習</li> <li>・ 野球応援 (決勝全校応援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な集団形成とクラスメイトとの協働</li> <li>・ 受験への準備とその対策の確認</li> <li>・ 保護者との連携及び生徒の状況把握</li> <li>・ 基礎学力到達度テスト対策</li> <li>・ 生徒の感受性や情緒を養い、教養と興味を深める</li> <li>・ 1 学期を振り返り、今後の生活に活かす</li> <li>・ 学力の定着・発展及び受験対策</li> <li>・ 帰属意識を高め、愛校心を育む</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季進学補習</li> <li>・ ハイスクールビジット・オープンキャンパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力の定着・発展及び受験対策</li> <li>・ 帰属意識を深める</li> </ul>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期始業式</li> <li>・服装頭髪指導</li> <li>・②体育クラス強化部集会</li> <li>・進路ガイダンス『出願準備』</li> <li>・校内日大模試</li> <li>・秋の交通安全指導</li> <li>・②進路希望調査</li> <li>・生徒会役員選挙</li> <li>・②参観授業</li> <li>・②学校生活アンケート</li> <li>・基礎学力到達度テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期のスタートを円滑にする準備</li> <li>・規範意識の高揚と自己管理の意識付け</li> <li>・生徒の自律，自覚指導と専門性の向上</li> <li>・受験への準備とその対策</li> <li>・学力の定着確認及び受験対策</li> <li>・登校時の安全指導</li> <li>・進路を考える力の育成</li> <li>・選挙活動への興味関心を育成</li> <li>・授業を公開し保護者との連携強化する</li> <li>・生徒の悩み等の把握</li> <li>・日本大学付属高等学校等推薦入試</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣替え，身だしなみ向上週間</li> <li>・②校内体育大会</li> <li>・面談日</li> <li>・②献血</li> <li>・②英検</li> <li>・2学期中間試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の変化の意識と、自己管理の意識付け</li> <li>・体育行事を通じて、級友と一致団結を図る</li> <li>・出願する学校や受験内容の確認</li> <li>・公共心の涵養、ボランティア体験</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・これまでの学習内容及び学力定着の確認</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②漢検</li> <li>・身だしなみ向上週間</li> <li>・学校推薦型選抜入試対策期間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・受験を控えた時期の自己点検</li> <li>・進路実現に向けての個に応じた指導</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ向上週間</li> <li>・2学期期末試験</li> <li>・学年集会</li> <li>・2学期終業式</li> <li>・クリスマスフェスタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理の意識付け</li> <li>・学習活動及び学力定着の確認</li> <li>・規範意識を高揚し，卒業に向けた生活を見直す</li> <li>・2学期の総括と今後の抱負を確認</li> <li>・文化活動の発表体験とその観賞</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期始業式</li> <li>・服装頭髪指導</li> <li>・③体育クラス強化部集会</li> <li>・③英検，③漢検</li> <li>・特別時間割（特別授業）</li> <li>・学年集会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期のスタートを円滑にする</li> <li>・卒業を直前に控えた立場での身だしなみを点検</li> <li>・生徒の自律，自覚指導と専門性の向上</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・様々な授業を通じ、知識や教養を身に付ける</li> <li>・規範意識，卒業に向けた意識の高揚</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予餞会</li> <li>・②数検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送別していただく自覚をもち、感謝の心を育む</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賞状授与式，卒業式予行演習</li> <li>・卒業式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の優れた活動を称えると共に、翌日の卒業式に向けた確認</li> <li>・高校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で清新な行事を経験する。また、新しい生活に向けた希望や期待の心を育む。</li> </ul>

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践国語(現代文)	3	3学年	Iコース理系

教科書名 高等学校 標準論理国語 (第一学習社)

副教材名 改訂版 学習のポイントが見える よむナビ現代文 2.5 (いいずな書店)

現代語練習帳 ことのは(いいずな書店)

評論速読トレーニング 700(数研出版)

## 1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	新しい博物学を (池内了)  SNSと意見の分極化 (岡本真一郎)	・各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察する。 ・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し、自分に照らして考えを深める。
	6	《中間試験 5/20～5/23》 カプトムシから考える里山と物質循環 (大倉茂)  コミュニケーションの文化 (平田オリザ)  《期末試験 6/25～6/28》	・人間と自然との関わりの変化を、自然の社会化という視点から考察した筆者の論理を読み解く。 ・文章構成や事例をもとに「コミュニケーションの文化」についての筆者の主張を把握する。
	【課題・提出物】 授業ノート、プリント、よむナビ現代文 2.5、評論速読トレーニング 700		
【1学期の評価方法】 定期試験の素点に30%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 10	僕らの時代のメディア・リテラシー(森達也)  基礎学力到達度テスト対策演習	・筆者の主張の要点を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深める。 ・基礎学力テストに向けて演習を行う。

11 12	《中間試験 10/7～10/10》	<p>科学技術は暴走しているのか(佐倉統)</p> <p>推論とは何か(仲島ひとみ)</p> <p>帰納法のワナ—一般化に対する疑問(谷岡一郎)</p> <p>《期末試験 12/2～12/5》</p> <p>ビブリオバトル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIやロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえ、科学技術との向き合い方を考える。</li> <li>・推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。</li> <li>・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解する。</li> <li>・文章を速読し、要点を捉える。</li> <li>・推薦する本の魅力が伝わるように紹介する。</li> </ul>
	【課題・提出物】授業ノート、プリント、よむナビ現代文2.5、評論速読トレーニング700		
	【2学期の評価方法】定期試験の素点に20%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。		
	月		
3 学 期	1	高橋書店 名言大賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で心に残った言葉を探し、その状況とともに紹介する。</li> </ul>
	【課題・提出物】授業ノート、プリント、よむナビ現代文2.5、評論速読トレーニング700		
【年間の学習状況の評価方法】1～2学期の定期試験の素点に20%を上限とした平常点(3学期分を含む)を加味して総合評価を付ける。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	定期試験・小テスト
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	定期試験・授業態度・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通し積極的に他者や社会に関わったり、考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・小テスト・提出物

#### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

【予習】本文を通読しわからない語句や漢字があれば調べておく。

話題、筆者の主張、その根拠となる部分にマークをつけながら読む習慣をつける。

各段落の役割を意識しながら読む。

【復習】授業で学んだ内容を元に、問題演習形式で解答の仕方を定着させる。

小説は副教材を用いて取り扱う。



科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践国語（古典）	3	3	Iコース理系

教科書名 高等学校 標準論理国語（第一学習社）  
副教材名 改訂版よむナビ古典 2.5（いいずな書店）  
ダブルマスター古典文法＋漢文句形（第一学習社）  
入試対策ベストセレクション古文単語 325（尚文出版）  
カラー版新国語便覧 アプリ版（第一学習社）

### 1 科目目標

- ①古文と漢文を読むことを通して日本文化や日本文化に影響を与えた中国文化を学び、広い視野と多様な思考を育成する。  
②古典作品を通して古人の考えを理解する。  
③学習した文法や語彙、古典知識を基に、演習を繰り返すことで読解のための力を身に付ける。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○基礎学力到達度テストに向けての演習 授業（3）  【基礎学力到達度テスト：4/18】  ○古文 歴史物語「大鏡」〈弓争ひ〉（6）	○2年次までの既習内容（古典の語彙・文法・知識等）を確認する。  ○歴史物語のエピソードや登場人物の人間像を的確に捉え、敬語に注意しながら作品の価値を理解する。 ※文法事項(敬語法)
	5	○漢文 「淮南子」〈宋人有嫁子者〉（4）  ○古典の演習(課題・小テスト) ・「よむナビ古典」 (古文1～4・漢文1～4) ・「古文単語 225」単語テスト (第3章)  【1学期中間試験：5/20～5/23】	○父親が娘に伝えた計画の内容を理解し、父親の思惑の何が道理に合っていないのかを読み取る。 ※句法（一部否定・二重否定・感嘆形）  ○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。
	6	○古文 日記「更科日記」 〈源氏の五十余巻〉（5～6）	○晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れるとともに、平安時代の古典知識を深める。 ※文法事項（助動詞の識別・副詞の用法）

7	<p>○<b>漢文</b> 歴史「史記」〈四面楚歌〉(6)</p> <p>○古典の演習(課題・単語テスト) ・「よむナビ古典」 (古文<b>5</b>～<b>特集/文法1</b>・漢文<b>5</b>～<b>7</b>) ・「古文単語 225」小テスト (第4章) 【1学期期末試験：6/25～28】</p> <p>【夏季休業課題】 「よむナビ古典」 (古文<b>8</b>～<b>12</b>・漢文<b>8</b>～<b>12</b>)</p>	<p>○中国の正史を学び、壮大な歴史や人物関係、人物像に触れることで広い視野と多様な思想を育成する。</p> <p>○長文を通して漢文の表現に慣れ、語句や句形の知識を身に付ける。 ※句法(感嘆形・疑問形・反語形) ※漢詩のきまり</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>
<p>【課題・提出物】 ○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5等 ○授業内で小テストを実施する。</p>		
<p>【1学期の評価方法】 定期試験の素点に30%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>9 ○「基礎学力到達度テスト」の過去の問題の解説。(8～9) 【基礎学力到達度テスト：9/26】</p> <p>○「古文単語 225」 プリントを使って学習し、小テストを行う。(3～4)</p> <p>○古典の演習(課題) 「よむナビ古典」 (古文<b>13</b>～<b>特集2</b>・漢文<b>特集2</b>～<b>句形2</b>)</p> <p>10 【2学期中間試験：10/10～】</p>	<p>○「基礎学力到達度テスト」の過去の問題を解くことで、古文・漢文の問題の傾向や、語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p> <p>○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>

11	○ <b>古文</b> 説話「御伽草子」(浦島太郎) (7～10)	○昔話として現代まで継承された話を読み、現実と半現実が入り混じる世界に生きる登場人物の心情を読み取る。
	○ <b>漢文</b> 思想「孟子」(仁人心也) (4～6) 「老子」(柔弱) (7～9)	○孟子や老子の思想を理解する。 ○思想の生まれた時代背景について理解を深め、中国の思想がわが国の文化や社会に与えた影響について学習する。
12	【2学期期末試験：12/9～12】	
	○「古文単語 225」 プリントを使って学習し、小テストを行う。 (3～4)	○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。
【課題・提出物】		
○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5 等		
○授業内で小テストを実施する。		
【2学期の評価方法】		
定期試験の素点に 20%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ○「古文単語 225」 プリントを使って学習し、小テストを行う。 (3～4)	○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。
【課題・提出物】		
○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5 等		
【年間の学習状況の評価方法】		
1～2 学期の定期試験の素点に 20%を上限とした平常点を加味して総合評価を付ける。		

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	○古典語の語彙や表現力の活用と応用 ・古典の基礎知識が身に付いているか。 ・古典文学を読むことで、広い視野や柔軟な思考を育むことができているか。	○授業態度や学習活動への取り組み方 ○課題等の提出状況

思考・判断・表現	<input type="checkbox"/> 古典文法を応用した文意の理解状況 ・ 古典文学を読み、内容を把握し、登場人物の心情を読み取り、作者の考え方を理解しているか。 <input type="checkbox"/> 感想や意見のまとめ ・ 語彙や文法事項、古典知識に注意し、本文を読み理解しているか。	<input type="checkbox"/> 学習活動への取り組み状況 <input type="checkbox"/> ワークシートやノートのチェック <input type="checkbox"/> 定期テスト・模試
主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/> 授業に取り組む態度 ・ 教材に興味を持って意欲的に学習活動に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 学習課題への取り組み状況 ・ 古典文学を理解するための努力をしているか。	<input type="checkbox"/> 学習活動への取り組み状況 <input type="checkbox"/> ワークシートやノートのチェック <input type="checkbox"/> 定期テスト・模試

#### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p><input type="checkbox"/> 予習と復習を怠らないこと。「ダブルマスター古典文法＋漢文句形」・「よむナビ古典 2.5」・「ベストセレクション古文単語 325」などを使って自主的に学習活動に励み、基礎学力の向上を努めること。</p> <p><input type="checkbox"/> 主体的かつ意欲的に学習活動に参加すること。</p> <p><input type="checkbox"/> 忘れ物や課題の提出遅れの等のないように取り組むこと。</p> <p>《毎時間準備するもの》</p> <p>【古文分野】…教科書・ノート・ダブルマスター古典文法＋漢文句形</p> <p>【漢文分野】…教科書・ノート・ダブルマスター古典文法＋漢文句形</p>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
地理総合	2	3 学年	I コース共通

教科書名 高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）  
 副教材名 新詳地理資料 COMPLETE 2024（帝国書院） 新地理総合ノート（帝国書院）

## 1. 科目目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決することにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身につける。

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1. ガイダンス 2. 地球上の位置と私たちの生活 3. 時差と私たちの生活①	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</li> <li>現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。</li> <li>現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> </ul>
	5	4. 時差と私たちの生活② 5. 統計地図の種類と利用 6. 地理情報システム（GIS）の活用 1 学期中間試験（教科書 P6～26）	
	6	1. テスト返却・解説 2. 現代世界の国家 3. 日本の位置や領域 4. 国家間の結び付き 5. 貿易によって結び付く世界 6. さまざまな交通網の発達 7. 世界を結ぶ通信網の発達	
	7	8. 観光のグローバル化 1 学期期末試験（教科書 P27～42）	
【課題・提出物】 ・授業ノート、ワークブックの点検			
【第 1 学期の評価方法】 ① 定期試験の成績 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 授業時の学習過程で、観点別評価内容の 3 項目について評価する。 (30%以内) また、授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	1. 大地形と人々の生活 2. 変動帯と人々の生活 3. 安定地域と人々の生活 4. 河川がつくる地形と人々の生活 5. 海岸の地形と人々の生活 6. 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</li> <li>・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを考察し、表現する。</li> </ul>
	10	7. 気温・降水と人々の生活 8. 大気大循環と人々の生活 9. 世界の植生と人々の生活 <b>2 学期中間試験</b> （教科書 P43～P67）	
	11	1. テスト返却・解説 2. 複雑に絡み合う地球的課題 3. 地球環境問題① 4. 地球環境問題② 5. 資源・エネルギー問題 6. 人口・食料問題① 7. 人口・食料問題② 8. 都市・居住問題①	
	12	9. 都市・居住問題② <b>2 学期期末試験</b> （教科書 P145～188）	
<b>【課題・提出物】</b> ・授業ノート，ワークブックの点検			
<b>【第 2 学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績                      知識・理解の確認のほか，思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点                  授業時の学習過程で，観点別評価内容の 3 項目について評価する。 (20%以内)                              また，授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	1. 日本の自然環境（地形） 2. 日本の自然環境（気候） 3. 地震・津波と防災 4. 火山災害と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で見られる自然災害について理解する。</li> <li>・地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設</li> </ul>

1	5. 気象災害と防災 6. 自然災害への備え	定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。
【課題・提出物】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業ノート，ワークブックの点検</li> <li>・ 冬季休業中の課題（自然環境と防災に関するレポート）</li> </ul>		
【第3学期の評価方法】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬季休業中の課題，授業ノート，ワークブックの状況などを評価する。</li> </ul>		
【年間の学習状況の評価方法】		
<p>① 定期試験の成績                      知識・理解の確認のほか，思考力・表現力を問う問題も出題する。</p> <p>② 学習態度等の平常点                  授業時の学習過程で，観点別評価内容の3項目について評価する。 (20%以内)                                  また，授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。</p>		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	世界の生活文化の多様性や防災，地域や地球的課題への取組などの理解，地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能，など。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の様子</li> <li>・ 授業ノート</li> <li>・ 定期テスト</li> </ul>
思考・判断・表現	地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力，など。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の様子</li> <li>・ 授業ノート</li> <li>・ 定期テスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度，など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の様子</li> <li>・ 授業ノート</li> <li>・ 探求レポート</li> </ul>

### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

地理の授業は自分の視野を広げることが目的です。まずは興味のある分野（スポーツ・音楽・食・ファッション・観光など）を通じて，世界のさまざまな文化や人々の生活に接してみてください。さらに，新聞やニュースなどから現代社会の諸問題にも関心を持ってほしいと思います。

地理に興味・関心がある生徒，また質問などがあれば気軽に担当教員に声をかけてください。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅲ	4	3 学年	I コース理系

教科書名 改訂版 新編 数学Ⅲ (啓林館出版)

副教材名 定着演習編 Axis 数学Ⅲ (啓林館出版)

### 1. 科目目標

- ・基礎学力到達度テストに対応できる学力を身につける。
- ・知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身につける。
- ・答え（結果）だけでなく、解く過程である「解答」を通して言語表現力を養う。
- ・発展的・研究的内容にも取り組み、自ら気づき、学びとる姿勢（探究型学習）も身につける。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 [7] 微分可能と連続 微分と導関数 合成関数の微分法	基礎学力到達度テストの類題などで対策を行い、しっかり解けるような学力を身につける。  微分可能性の概念を理解し、微分可能性と連続性との関係を把握することから始めて、和・差・積・商の導関数の公式、合成関数、逆関数、陰関数の微分法を示して、微分の演算の習得を目指す。
	5	第2節 いろいろな関数の導関数 [8] 三角関数の導関数 対数関数・指数関数の導関数 高次導関数	三角関数の微分、対数関数の微分の技法を習得し、それと関連して自然対数の底 $e$ を導入して指数関数の微分ができるようにする。また、高次導関数の概念を理解し、簡単な関数の第2次、第3次導関数が求められるようにする。
	6	第3節 導関数の応用 [9] 接線の方程式 平均値の定理 関数の増減 第2導関数とグラフ 第2導関数と極大・極小	導関数を用いて様々な問題への活用を図る。接線や法線の方程式を求めること、平均値の定理を用いて $f'(x)$ と $f(x)$ の増減を調べることができる。また、第2次導関数を用いてグラフの凹凸、変曲点を調べてグラフをかけるようにする。



7	第4節 微分法の応用 [6] 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 速度と加速度 関数の値の近似  <div style="text-align: right;">1 学期期末試験 (6/25~28)</div>  <div style="text-align: right;">基礎学対策模試 (7/17)</div>	最大・最小や方程式・不等式の証明問題などへの応用を図り、微分の有用性を認識できるようにする。速度、加速度と微分法の関連を理解し、微分学の基本的な考えが身につける。
	【課題・提出物】	問題集から出題
	【第1学期の評価方法】	定期試験の成績(70%)・・・1学期中間試験・1学期期末試験の計2回。 課題提出物等の平常点(30%)・・・課題の提出状況进行评估する。

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<div style="text-align: right;">校内日大模試(9/3)</div>  基礎学力到達度テスト対策演習 [10]  <div style="text-align: right;">基礎学力到達度テスト(9/26)</div>	
	10	第4章 積分法 第1節 不定積分 (6) 不定積分  <div style="text-align: right;">2 学期中間試験 (10/7~10)</div>  第4章 積分法 第1節 不定積分 [8] 不定積分 置換積分法 部分積分法 いろいろな関数の不定積分	微分法と同様に、扱う関数の範囲を広げ、積分の基本的な性質や置換積分法、部分積分法について理解し、これらを用いた計算をできるようにする。

11	<p>第2節 定積分 [6]</p> <p>定積分 定積分と微分</p> <p>第3節 定積分の応用 [10]</p> <p>面積 体積 曲線の長さ 定積分と和の極限 定積分と不等式</p> <p style="text-align: center;">2学期期末試験(12/2~5)</p>	<p>定積分の定義を再確認し、不定積分の公式を用いて、定積分の計算をできるようにする。これと関連して、偶関数と奇関数の性質を利用すると、定積分の計算が簡単になる場合があることを認識する。次に、定積分と微分の関係、定積分について理解を深める。</p> <p>いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を計算する。また、媒介変数で表された曲線によって囲まれた図形の面積も求められるようにする。積分による体積の求め方を扱い、角錐や円錐などの体積を求め、積分の有用性を理解する。さらに、回転体の体積を求める技法を習得し、体積が求められるようにする。円弧やサイクロイドの曲線の長さを計算できるようにする。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>問題集から出題・夏休み課題</p>		
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>定期試験の成績(80%)・・・1,2学期中間試験・1,2学期期末試験(期末時は年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・課題・夏季課題の提出状況の評価する。</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	高校数学総復習	進学後も必要となる内容の定着・発展できる知識や学力を身に付ける。
		大学数学への準備	大学入学後もしっかり授業についていけるような学力を身に付ける。
	1	特別授業(1/14~29)	
<p>【課題・提出物】</p> <p>特になし</p>			
<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>1,2学期の成績を基本とする。</p>			
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>定期試験の成績(80%)・・・3学年時の定期試験の計4回(年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・課題・春季課題・夏季課題の提出状況の評価する。</p>			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	各単元の内容を正しく理解し、数学的な表現に対する処理の方法を身に付け、適切に扱うことができる。	授業態度 課題の取り組み方 定期試験
思考・判断・表現	各単元での抽象的内容を正しく捉え、論理的に考えるとともに、思考の過程を多面的・発展的に考えることができる。	授業態度 課題の取り組み方 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	各単元の内容に関心をもち、積極的に授業へ参加し、課題などにも意欲的に取り組むことができる。	授業態度 課題の取り組み方

### 4. 学習サポート

1 学年から積み重ねてきた知識の集大成です。1 学年，2 学年の数学で解らない部分は，早い時期に復習するなど，教科担当の先生と相談しながら対策していきましょう。授業中の理解も同様に，少しでも疑問に思う部分は担当の先生に早めに質問し，授業についていけるよう努力していきましょう。諦めたらそこで終了となります。更なる自己の成長のため，諦めずに最後まで頑張りましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学 C	3 単位	3 年	I コース理系

教科書名 新編 数学 C (啓林館)

副教材名 Axis 数学 C 定着演習編 (啓林館)

### 1. 科目目標

- 基礎学力到達度テストに対応できる学力を身に付ける。
- 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身に付ける。
- 答え（結果）だけではなく、解く過程を数字や文字を用いて表現できる能力を育成する。
- 発展的な内容にも自発的に取り組み、授業以外の場面での学習を充実させる。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい 学習チェックリスト
1 学 期	4	春季特別講座 [3] 基礎学力対策 基礎学力到達度テスト(4/18)	
	5	第3章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 放物線 楕円 双曲線 (3) 2次曲線の平行移動 (2) 第2節 媒介変数と極座標 曲線の媒介変数表示 (3) 第2章 複素数平面 第1節 複素数平面 複素数と複素数平面 (2) 1学期中間試験(5/20~23)	<input type="checkbox"/> 放物線・楕円・双曲線の定義を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 様々な2次曲線の方程式を理解できる。 <input type="checkbox"/> 平行移動を表す2次曲線から、その特徴を正しく捉えることができる。 <input type="checkbox"/> 媒介変数表示された曲線の図形を認識することができる。 <input type="checkbox"/> 円・楕円・双曲線を媒介変数を用いて処理することができる。 <input type="checkbox"/> 複素数平面を認識できる。
	6	複素数の絶対値・和と差・実数倍(2) 複素数の極形式(2) 極形式における積と商(2) ド・モアブルの定理(2) 方程式 $z^n = \alpha$ の解(2) 1学期期末試験(6/25~6/28) 基礎学対策模試 7/17	<input type="checkbox"/> 複素数の絶対値を理解し、2点間の距離を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数を極形式で表すことができる。 <input type="checkbox"/> 極形式を利用した計算の利点を理解し、その活用ができる。 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を活用できる。 <input type="checkbox"/> 複素数を含む方程式 $z^n = \alpha$ を解くことができる。

1 学 期	【課題・提出物】 問題集を参考にしたプリントを課題とする。 解答・丸付けまで終えて、課題を提出する
	【第1学期の評価方法】 定期試験の成績(70%)                      1学期中間試験・1学期期末試験の計2回 学習態度等の平常点(30%)                課題の取り組み・提出状況、授業への取り組み

月	学習内容	学習のねらい 学習チェックリスト
2 学 期	9 校内日大模試(9/3) 基礎学力到達度テスト対策 主に、数学Ⅲ・Cの内容	基礎学力到達度テスト範囲 (必須) 数学Ⅰの全範囲 数学A(図形の性質・場合の数と確率)
	10 基礎学力到達度テスト(9/26) 基礎学力到達度テストの復習	数学Ⅱの全範囲    数学B(数列) 数学Ⅲ(極限)    数学C(ベクトル) (選択)以下の3単元から1単元
	11 2学期中間試験(10/7~10)	数学Ⅲ(微分法・微分法の応用) 数学B(統計的な推測)
	12 数学C 第3章 平面上の曲線 第2節 媒介変数と極座標 極座標と極方程式(4) 第2章 複素数平面 第2節 平面図形と複素数 内分点・外分点(3) 複素数と角(3) 等式の表す図形(3) 2学期期末試験(12/2~5)	数学C(平面上の曲線と複素数平面)  <input type="checkbox"/> 極座標と極方程式を用いた数学的な表現を理解し、それを活用できる。 <input type="checkbox"/> 複素数平面上的の内分点・外分点を求めることができる <input type="checkbox"/> 複素数の性質を用いて、角の大きさを求めたり、等式の表す図形を理解することができる。
【課題・提出物】 問題集を参考にしたプリントを課題とする。 解答・丸付け・復習まで終えて、課題を提出する。		
【第2学期の評価方法】 定期試験の成績(80%)                      1.2学期中間・1.2学期期末試験の計4回の総合評価 学習態度等の平常点(20%)                課題の取り組み・提出状況、授業への取り組み		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	総合演習  特別授業 1/14～29	<input type="checkbox"/> 大学入試問題に触れ、学力を伸ばす。 <input type="checkbox"/> 第4章 「数学的な表現の工夫」の行列に触れ、活用を理解する。
		【課題・提出物】 特になし	
		【第3学期の評価方法】 1.2 学期の成績を基本とする。	
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 定期試験の成績 (80%)                      3 学年時の定期試験 (合計 4 回の年間評価) 課題提出物等の平常点 (20%)              日常の課題の提出状況进行评估する。			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	授業の内容を理解し、それを活用することで問題を解くことができる。 課題を通じて、基礎的・標準的な問題を解くことができる。 定期試験において、標準的な知識の習得に関する問題を解くことができる。	授業態度 課題 定期試験等
思考・判断・表現	授業の内容を深く考察し、抽象的な内容を正しく理解することができる。 定期試験において、問題を読み、解法の考察ができる。また、授業で得た知識を活用し、解答を表現することができる。	授業態度 課題 定期試験等
主体的に学習に取り組む態度	数学に興味・関心を持ち、積極的に授業へ参加することができる。 授業で学んだことを生かし、発展的な課題の問題に着手し、理解を深めることができる	授業態度 課題

### 4. 学習サポート

1 学期は媒介変数やド・モアブルという新しい単元の内容を扱います。これまでに習ってきた内容を活用していくこととなります。授業の復習を大切に、不明な点を作らずにしましょう。

2 学期以降は、数学 C の内容を深めていきます。理工系大学では必須の内容です。理解を深めていきましょう。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践物理	5	3	Iコース理系

教科書名 物理（東京書籍）

副教材名 ニューグローバル物理基礎＋物理（東京書籍）

## 1. 教科目標

1. 物理に対する興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
2. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。
3. 物理の学習を通じて、主体的に学び続ける姿勢と、他者と協働して学習する態度を身に付ける。

学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。

また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切に、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	3 光の性質 1 光の進み方 2 光の性質 3 レンズと鏡面鏡	反射・屈折の法則について理解する。 分散・散乱・偏光について理解する。 レンズの性質、レンズによる像について学ぶ。 ヤングの干渉実験、回折格子、薄膜による干渉について理解する
	5	4 光の回折と干渉	
		<b>1学期中間試験</b> <b>基礎学対策模試（日大チャレンジ模試）</b>	
		1 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位	
	6	4 コンデンサー 2 電流 1 電流	クーロンの法則について学ぶ。 電場の概念を理解し、電場の合成や電界から電荷が受ける力について学ぶ。 電位の概念を理解し、点電荷による電位や一様な電界における電位について理解する。 コンデンサーが充電する電荷、たくわえるエネルギーについて学ぶ。 コンデンサーの並列接続、直列接続について学ぶ。 電流の定義やオームの法則の復習をする。

		<p>2 直流回路</p> <p>3 非線形抵抗</p> <p>基礎学力到達 度テスト対策</p> <p><b>1 学期期末試験</b></p>	<p>キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路について解析をする。</p> <p>電球などの非線形抵抗について理解する。</p> <p>基礎学力到達度テスト対策を始める。</p>	
		<p><b>【課題・提出物】</b></p> <p>・確認テストおよびALリフレクションシート      ・ニューグローバル</p>		
		<p><b>【第1学期の評価方法】</b></p> <p>定期試験 + 平常点 (ニューグローバルの取り組み, 授業に対する意欲・積極性)</p>		
	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	7	夏季進学補習	既習事項の復習	
	8	基礎学対策, 一般入試対策演習	基礎学力到達度テストに向けた実践演習	
	9	基礎学力到達度テスト対策実践演習		
		<b>基礎学力到達度テスト</b>		
		3 電流と磁場	1 磁気力と磁場 2 電流がつくる磁場	電場と比較しながら磁場を理解する。 電流のつくる磁場のようすを学ぶ。
	10	2 学期中間試験	3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	磁場が電流におよぼす力について学ぶ。 運動する荷電粒子が磁場から受ける力について理解する。
		4 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則 2 磁場中を運動する導体の棒 3 自己誘導と相互誘導 4 交流	ファラデーの電磁誘導の法則を理解する。 磁場中を運動する導体棒に生じる誘導起電力について理解する。 自己誘導, 相互誘導, コイルがたくわえるエネルギーについて理解する。 交流が発生する仕組みを電磁誘導の法則から理解する。
	11		5 電気振動と電磁波	交流における抵抗, コンデンサー, コイルのはたらきについて理解する。 振動回路, 共振, 電磁波の発生とその性質について理解する。
		1 電子と光	1 電子の電荷と質量 2 光の粒子性 3 X線	陰極線の性質について理解する。 ミリカンの実験について理解する。 光電効果について理解し, 光量子仮説について考える。 X線の波動性と粒子性について理解する。



1 2	2 原子・原子核・素粒子	4 粒子の波動性 1 原子モデル 2 放射線と原子核 3 原子核反応 4 素粒子と宇宙	波動と粒子の二重性について理解する。 ボーアの原子モデルから量子条件について理解する。 放射線の性質と原子核の崩壊について理解する。 質量とエネルギーの等価性について理解する。 核分裂と核融合について理解する。 素粒子の分類、性質について理解する。
	【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・ニューグローバル ・長期休業中課題		
	【第2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点（課題への取り組み、授業に対する意欲・積極性）		
3 学 期	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	一般入試対策演習	一般入試レベルの物理に触れる。 一般入試で合格できる実力を養成する。
	【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・冬期休業中課題		
	【第3学期の評価方法】 定期試験 + 平常点（課題への取り組み、授業に対する意欲・積極性）		
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点（課題への取り組み、授業に対する意欲・積極性）			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	物理量や物理の現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	定期試験 演習プリント
思考・判断・表現	様々な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	グループワークにおける活動 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	学習活動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	学習活動における態度、 振り返りシート

#### 4. 学習サポート

1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度を身につけましょう。
2. 物理法則の導出過程を大切にし、論理的な思考力を高めよう。
3. クループ活動・討論をしながら、学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。
4. 繰り返し演習に取り組み、徹底して基礎を定着させましょう。

##### <定期試験に向けて>

1. 演習プリントで基礎の確認。(教科書, 授業プリントの見直し)
2. ニューグローバルを2～3周。

##### <基礎学力到達度テストに向けて>

1. ニューグローバルでしっかり復習。
2. 過去問題で実践演習。テスト形式で行い、自己採点をして解き直し。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実 践 化 学	5	3	Iコース

教科書名 化学(実教出版)

副教材名 ビーライン化学(第一学習社)

ビーライン化学基礎(第一学習社)

とってもやさしい化学(旺文社)

### 1. 科目目標

化学的な物事、現象に関する基本的な原理、法則、語句の意味を理解し、身の回りの物事、現象を化学的に探求する方法を身につける。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	2章 物質の変化と平衡 4節 化学平衡 3. 電解質水溶液の平衡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電離平衡と電離定数, 酸の電離定数, 塩基の電離定数, 電離度と電離定数を求める力を育成する。</li> <li>・水の電離平衡を理解し, pHの値を求める力を育成する。</li> <li>・塩の加水分解と水溶液の性質について学習する。</li> <li>・緩衝作用とは何か理解する。</li> <li>・緩衝液とpHの関係を学習する。</li> <li>・難溶性塩の溶解と溶解度積, 溶解平衡と沈殿生成, 共通イオン効果, 溶解平衡と金属イオンの分離を学習する。</li> </ul>
	5	3章 無機物質 1節 元素と周期表 1 周期表と元素の性質 1学期中間試験 2節 非金属元素 1 水素と貴ガス 2 ハロゲンとその化合物 (酸素, 硫黄とその化合物) (窒素, リンとその化合物) (炭素, ケイ素とその化合物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周期表の構成と単体の性質について理解する。 メンデレーエフの功績について学習する。</li> <li>・各族の単体と代表的な化合物の性質について学習する。</li> <li>・気体の製法および性質について学習する。</li> <li>・工業的製法について学習する。 反応の仕組み、製造工程、これに伴った生産量の算出について学習する。</li> </ul>

1 学 期	5	3節 典型金属元素 1 アルカリ金属 2 アルカリ土類金属 (遷移金属)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各族の単体と代表的な化合物の性質について学習する。</li> <li>・両性金属について学習する。</li> </ul>
	6	4節 遷移元素 1 遷移元素とその化合物 2 鉄        3 銅 4 銀        5 亜鉛 6 クロムとマンガン 7 金属イオンの分離と確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遷移元素の特徴について学習する。</li> <li>・金属イオンの定性反応を理解し混合溶液からの分離について学習する。</li> <li>・軽金属と重金属，卑金属と貴金属，金属の製錬について学習する。</li> </ul>
	7	1 学期期末試験  夏期進学講座	
2 学 期	8	4章 有機化合物 1節 有機化合物とその構造 1 有機化合物の特徴と分類  2 有機化合物の構造の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官能基による有機化合物の分類、特徴を学習する。</li> <li>・燃焼分析の実験操作、未知試料の有機化合物の構造決定について学習する。</li> <li>・元素分析による有機化合物の構造決定について学習する。</li> </ul>
	9	2節 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素  2 不飽和炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルカンの構造式を書き構造異性体を理解する。また、置換反応を学習する。</li> <li>・アルケンの構造式を書き幾何異性体を理解する。</li> <li>・アルケン，アルキンの付加反応を学習する。</li> </ul>
		3節 酸素を含む脂肪族化合物  1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸とエステル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な有機化合物を暗記し利用できるようにする。</li> <li>・アルコールを中心とした有機化合物の系統図を書ける力を身につける。</li> <li>・エステルの反応機構を理解する。</li> <li>・油脂の構造と反応について学習する。</li> </ul>

<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に配布する演習プリント</li> <li>・授業ノート</li> </ul>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績（70%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。</li> </ul> <p>② 学習態度等の平常点（30%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。</li> <li>・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。</li> </ul>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>10</p> <p>4節 芳香族化合物</p> <p>1 芳香族炭化水素</p> <p>2 酸素を含む芳香族化合物</p> <p>3 窒素を含む芳香族化合物</p> <p>4 混合物の分離</p> <p>2学期中間試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンゼンを中心とする芳香族炭化水素の構造および性質，反応性について学習する。</li> <li>・酸素や窒素を含む芳香族化合物について学習する。</li> <li>・芳香族化合物の混合物の分離について学習する。</li> </ul>
	<p>11</p> <p>5章 高分子化合物</p> <p>1節 高分子化合物</p> <p>1 高分子化合物の分類と特徴</p>	
	<p>2節 天然高分子化合物</p> <p>1 糖</p> <p>2 タンパク質</p> <p>3 核酸</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機高分子と無機高分子の違いを理解する。</li> <li>・天然高分子と合成高分子について概要を理解する。</li> <li>・単糖類、二糖類と六炭糖と五炭糖・デンプン、グリコーゲン・アミノ酸の性質，反応タンパク質の種類，構造，反応について理解する。</li> <li>・酵素の構造と働きについて学習する。</li> <li>・核酸の構成について理解する。</li> </ul>
	<p>12</p> <p>3節 合成高分子化合物</p> <p>1 合成繊維</p> <p>2 プラスチック(合成樹脂)</p> <p>3 機能性高分子化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成方法の違いと生成物について理解し分類できる力を身につける。</li> <li>・プラスチックの分類について理解する。</li> <li>・代表的な機能性高分子と性質について理解する。（イオン交換樹脂、導電性高分子など）</li> </ul>

2 学 期	12	3節 合成高分子化合物 4 ゴム  2学期期末試験  共通テスト対策演習 一般試験、二次試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然ゴム，合成ゴムとその性質について比較しながら理解する。</li> <li>・単元別、時間をはかりながら、実践的な演習を行う。</li> </ul>
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・夏季休業中の課題		
	【第2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（80%） ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点（20%） ・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	共通テスト対策演習 一般試験、二次試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間をはかりながら、実践的な演習を行う。</li> </ul>
	【課題・提出物】 ・授業中に配布する演習プリント		
	【第3学期の評価方法】 ① 学習態度等の平常点 ・授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績を総合して評価する。			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。</li> <li>・物質とその変化に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探求する基礎を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・定期試験</li> <li>・小テスト</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化の中に問題を見出し，研究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート</li> <li>・演習プリント</li> <li>・定期試験</li> </ul>

主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> <li>・演習プリント</li> <li>・実験レポート</li> </ul>
---------------	---	---

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談をしています。つまづいている箇所があれば、早めに質問をして解消ください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践生物	5	3 学年	I コース理系

教科書名 生物 (啓林館)

副教材名 スクエア最新図説 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

スタディアップノート (数研出版) セミナー生物 (第一学習社) 生物ノート (数研出版)

## 1. 科目目標

### 1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを実感する。

### 2. 学力をつける

日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テスト、私立大学一般試験に対応できる学力を構築する。

### 3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	基礎学力到達度テスト(3年生9月)に向けた演習①	第1編 生物の特徴 生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があることを理解する。
	5	<b>生物基礎</b> 第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。  第2編 生物の特徴 遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。
	6	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持  第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系  1 学期中間試験	第3編 生物の多様性と生態系 植生や遷移のしくみ、バイオームについて学習する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。



	<p>基礎学力到達度テスト(3年生9月)に向けた演習②</p> <p><b>生物</b></p> <p>第1編 生命現象と物質 第1章 生物の進化</p> <p>第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 第3章 代謝</p> <p>第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生</p> <p>1学期期末試験</p>	<p>第1編 生命現象と物質</p> <p>生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。</p> <p>生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。</p> <p>第2編 生命現象と物質</p> <p>細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。</p> <p>第3編 遺伝情報の発現と発生</p> <p>DNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。また、遺伝子の発現調節の概要とバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解する。</p>	
	<p>【課題・提出物】</p> <p>・授業中に配布する演習プリント ・セミナー生物（定期試験範囲、月別範囲）</p>		
	<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績（70%） ② 学習態度等の平常点（30%）</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	基礎学力到達度テストに向けた演習(1学期の復習)	第4編 生物の環境応答
	10	共通テストに向けた演習	動物は外界からの刺激に反応し、神経系を介して反応や行動が起こるしくみを理解する。
		第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答	植物の成長や反応に植物ホルモンがどのように関わっているか理解する。
		第5編 生態と環境	第5編 生態と環境
		第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。特にそれぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。また、生態系における物質生産についても学習する。
	10	2学期中間試験	
	11		

	12	共通テストに向けた演習 (生物基礎と生物の総復習) ・入試問題の分析 ・入試問題の演習  2学期期末試験	生物基礎・生物の基礎知識を整理し、それらの定着をはかる。
<b>【課題・提出物】</b> ・授業中に配布する演習プリント ・夏季休業中の課題 ・セミナー生物 (定期試験範囲、月別範囲)			
<b>【第2学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績 (80%)      ② 学習態度等の平常点 (20%)			
	3 学 期	月      学習内容	学習のねらい
	1	グループ探究とプレゼンテーション	生物に関連する事象について調べ、自ら探求する力を養う。  調べたことを発表することで、プレゼンテーションスキルを養う。
<b>【課題・提出物】</b> ・プレゼンテーションに使用した資料			
<b>【第3学期の評価方法】</b> 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。			
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> ①定期試験の成績 (80%)      ②平常点 (20%)			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出すことができる。</li> <li>生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。</li> <li>自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> </ul>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を化学的にとらえられる。</li> <li>科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出し、それを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時の様子</li> <li>定期テスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時の様子</li> <li>提出物</li> </ul>

	とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	
--	--	--

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・随時、学習相談を実施していますので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。</li><li>・基礎学力到達度テスト・大学入学共通テストに向けて、授業内でも過去問演習や問題の解説等の時間を作っていきます。</li></ul> |
|--|

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

## 1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①挨拶・集合・体形 ②方向変換・列の増減  体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画  (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次）  陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できる力を身に付ける。  ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を育成する。  ・以下 4 項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響  ・2年次までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切にし、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む力を育成する。 ・毎年継続して実施をする、スポーツテスト〔走〕種目における、自己の目標達成及び記録向上を目指す。

5	スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳 び・ハンドボール投げ	・自分の今持っている体力を知り日常の運動の 習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を 育成する。
6	ソフトテニス ① オリエンテーション	ソフトテニスの基礎技術を身につけ、ネット型スポ ーツの特性を理解する。
7	② グランドストローク (フォア・バック・ロブ) ③ バックハンド ④ サービス ⑤ ルール ⑥ ゲーム（簡易ゲーム・ダブルス）	(生徒自らが)主体的にゲームを中心とした活動が 出来る力を育成する。 フォアハンド、ロブを重点に習得し、ラリー（乱打） を継続できる力を身に付ける。 バックハンドの技術、およびサービスを狙った所へ 打つことの出来る力を身に付ける。 生徒の技量に合わせた内容で試合（簡易ゲーム含） が出来る力を身に付ける。
	理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営 などを学ぶ	生涯スポーツの選択肢の一つとして、ソフトテニス も含まれるような知識、技能を身に付ける。

【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施予定。

【第1学期の評価方法】

1. 実技試験（60%）

①ソフトテニスの基礎技術に関する試験を実施する。

グランドストローク（フォア・バック）、サービス、簡易ゲームによる技術的評価

②スポーツテスト（新体力テスト）

・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び  
※実施時間数によって上記種目から選択をし、評価に加える。

2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）

- ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。
- ・正しい服装で授業へ参加できている。
- ・ルール等の確認テスト。

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 体づくりの運動 ① 体ほぐしの運動 ② 体力を高める運動	長期休業後の体力回復、怪我、病気等の予防につな がる力を育成する。 特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。

10 11 12	〔球技選択〕 バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール等  ・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施  体育理論 ・実施する種目のルール・技術の知識の習得	今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、自らが主体となって種目（授業）を展開する力を身に付ける。 生涯スポーツにつなげられるよう、多岐にわたる種目を選択・実施する。  実施する種目ごとに基礎的スキル・ルール、ゲームの進め方についての知識・技能を身に付ける。
【課題・提出物】 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施予定。		
<b>【第2学期の評価方法】</b> ①実技試験（60%） ・主とする実施種目への取り組み及びスキル評価表を基に評価する。 ※選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 〔球技選択〕	授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを学習する。 種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進める力を身に付ける。
【課題・提出物】 なし		
<b>【第3学期の評価方法】</b> 1. 実技試験・授業への取り組み（60%） ・主とする実施種目への取り組みを基に評価をする。 2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%） ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 1 学期末と2 学期末に進学用の仮評定を算出する。 学年末の評定（評価）は1 学期・2 学期・3 学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。		

### 3 観点別評価内容および評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。</li> <li>2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており、ゲームに生かすことができる。</li> <li>3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い、攻防を展開できる技能を有する。</li> <li>4. ミニゲームの審判を務めることができる。</li> </ol>	<p>実技テスト 確認テスト 記録 観察</p>
思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し、伝えようとしている。</li> <li>2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。</li> </ol>	<p>記録 観察</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。</li> <li>2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし、学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。</li> <li>3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。</li> </ol>	<p>記録 観察</p>

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応する。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーションⅢ	5	3	Iコース

教科書名	BIG DIPPER English Communication III	(数研出版)
副教材名	英単語ターゲット 1400	(旺文社)
	Listening Platform 2	(いいずな書店)
	大学入試 レベル別 英語長文問題集 THE LEVELS 1 私大標準レベル	(旺文社)
	Listening Platform 3	(いいずな書店)
	SW の王道 大学入試 4 技能試験対応コア表現トレーニング上級編	(いいずな書店)

## 1. 科目目標

<p>学習のねらい</p> <p>聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの領域を総合的に扱う。聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通し、4技能5領域を育成する。「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を身に付ける。</p>
--

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson1 Is the Meat Real or Fake? 「代替肉」が地球を救う? ●例示 Lesson1 京都産業大学 (242words) 15 (10) 分	☆BIG DIPPER☆ 本文 2 ページ…2 時間 3 ページ…3 時間 6 ページ…6 時間ペースで考える。
	5	Lesson2 Let' s Have a Healthy Workout 筋トレがブームに ●追加 Lesson2 昭和女子大学 (265words) 15 (10) 分	☆大学入試 レベル別 英語長文問題集 THE LEVELS 1 私大標準レベル☆ 時間を計り、実際に解く (Lesson1 に付き、2 時間ペースで考える。)
		Lesson3 My Opinion of Zoos 動物園の是非 ●討論でよく使う表現 Lesson3 東京女子大学 (282words) 20 (15) 分	☆Listening Platform 2☆ 1 学期中間試験明けから、1 時間に 1 問または 1 ページペースで Lesson16～進める。1 学期期末試験までに～ Lesson18、9 月基礎学力到達度テスト前に Lesson19, Listen20 を進め終了する。
		Lesson4 成蹊大学 (323words) 20 (15) 分	
		Lesson5 日本大学 (348words) 20 (15) 分	☆英単語ターゲット☆ 601～1400 (1 週間に 50 個ペース) 長期休業明けは個数を増やす対応を取り、9 月基礎学力到達度テスト前に終了する。テスト後は、復習テストを行う。※別紙参照。
	《1 学期中間試験》		



1 学 期	6	Lesson4 The History of <i>Ekiben</i> 日本人が愛する駅弁 ●言い換え表現 Lesson6 成城大学 (295words) 20 (15) 分 Lesson5 Three Tips for Maintaining a Conversation 会話を続ける3つのコツ ●列挙 Lesson7 甲南大学 (352words) 25 (20) 分 Lesson8 東洋大学 (353words) 25 (20) 分 Lesson9 甲南大学 (344words) 25 (20) 分 Lesson10 神戸学院大学 (363words) 25 (20) 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>各段落が、主題文 (Topic Sentence) と支持文 (Supporting Sentences) で構成されていることを理解する。</li> <li>※主題文 (Main Idea を伝える) と支持文 (Main Idea を説明する) の区別を学習する。</li> <li>文章の構成 (各段落の役割) を理解する。</li> <li>※序論 (文章のテーマを提示/Introduction) ⇒ 本論 (論理展開/Body) ⇒ 結論 (文章の結論を提示/Conclusion) の流れを学習する。</li> <li>主な展開パターン (追加・列挙=主張に対し, 根拠を列挙し展開/時間的順序=時間の流れに沿って展開/因果関係=原因・理由に対し, 結果を示して展開/対比=2 つ以上の要素を比較/譲歩=主張に対し, 反論を示して展開) を理解する。</li> </ul>
		《1 学期期末試験》	
		【課題・提出物】 ・英単語小テスト ・授業中板書事項まとめノート	【1 学期の評価方法】 定期試験素点：70% (中間試験及び期末試験) 平常点：30% (課題提出, 小テスト, 授業態度等)
月		学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Lesson6 The History of Recorded Music 音楽メディアの歴史 ●時間的順序 Lesson11 駒澤大学 (381words) 25 (20) 分 Lesson7 Online Word-of-Mouth レストランの口コミ Lesson12 成城大学 (345words) 25 (20) 分 Lesson13 追手門学院大学 (398words) 25 (20) 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知語の意味を推測しながら読み進める技術を学習する。</li> <li>※ (A) …接続詞の前後関係から読み説く (B) …文脈 (文章の流れ) から読み説く (C) …接頭辞 (dis-) や接尾辞 (-able) から読み説く</li> <li>強弱やリズムを意識して音読し, Listening や Speaking 能力を育成する。</li> <li>※アクセントのある音節 (名詞や動詞) はゆっくり, アクセントのない音節は早口で発音する。</li> <li>※内容語 (名詞や動詞, 形容詞や副詞) は強く, 他語 (冠詞や接続詞, 前置詞や代名詞, 助動詞, be 動詞) は弱く発音する。</li> <li>※意味の上で重要な語を最も強調して発音することを理解する。</li> </ul>
	10	Lesson14 近畿大学 (428words) 25 (20) 分 Lesson15 亜細亜大学 (414words) 25 (20) 分	

2 学 期	《2学期中間試験》	
	11	Lesson8 After the Flowers 植物のさまざまな戦略 ●因果関係 Lesson9 Hot Springs at Home and Abroad 日本と世界の温泉施設 ●対比 Lesson10 <i>Kintsugi</i> ものを大事にする日本の文化 Lesson11 Art on Display 博物館の展示内容
	12	Lesson12 Can You Manage Your Anger 「怒り」のコントロール ●譲歩 Lesson13 Crowdfunding クラウドファンディングとは？ Lesson14 A New Orchestra and a New Harmony パラグアイのユニークなオーケストラ ●新聞記事を読むために
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキミングとスキヤニングを理解する。</li> <li>※Skimming・・・「ざっ」と目を通して、文章の要点を捉える。</li> <li>(A)・・・Key Wordを見つける。</li> <li>(B)・・・Discourse Marker (展開を表す語句＝ディスコース・マーカ)に注意する。</li> <li>※Scanning・・・自分が必要とする情報と、そうでない情報を区別する。</li> </ul>
《2学期期末試験》		
【課題・提出物】		【2学期の評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英単語小テスト</li> <li>・授業中板書事項まとめノート</li> </ul>		定期試験素点：80% (中間試験及び期末試験) 平常点：20% (課題提出, 小テスト, 授業態度等)
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson15 Instant Replay in Sports スポーツにおける判定のビデオ検証 Lesson21 Having a Discussion ディスカッションの注意点
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構造を意識して、350～400語の英文を理解する。</li> <li>・450語を超える長さの英文や、様々な形式の情報を元にして、考えを深めることを育成する。</li> </ul>
【課題・提出物】		【3学期の評価方法】
特になし		試験素点：80% (1学期からの総合評価) 平常点：20% (1学期からの総合評価)
【年間の学習状況の評価方法】		
定期試験素点：80% (年間4回の試験素点の平均点) 平常点：20% (各学期平常点の平均点)		

### 3. 評価観点、内容及び評価方法

評価項目	評価観点及び内容	評価方法
知識・技能	各単元のトピックに対する興味・関心を深める。また、英単語の意味や綴りを正確に学習する。	授業への参加姿勢 英単語テスト・定期試験
思考・判断・表現	各単元のトピックに関して、自ら考え、自分の意見を発表できる力を育成する。	授業への参加姿勢
主体的に学習に取り組む態度	授業内容を正確に理解し、日本語訳に頼らず、内容を把握する。また、自ら学習に励み、積極的に知識の定着を図ろうと学習する。	授業への参加姿勢 英単語テスト・定期試験

### 4. Listening Platform 2 (リスニング教材) の取り扱いについて

3年次の英語コミュニケーションⅢは、週4時間です。毎時間、10～15分を割き、日本人教員によるListening授業を行います。リスニングの強化は、基礎学力到達度テスト時に役立ちます。聴くことを習慣化し、能力向上に努めます。授業では、各文のポイント、また、決め手となるキーワードやキーセンテンスを、分かりやすく伝えます。授業では、聴く⇒解答・解説⇒聴く のサイクルで、多聴を心がけます。Lesson16～20を基礎学力到達度テスト前に終了します。

### 5. Listening Platform 3, Pair & Share 3 (S/WⅢ教材) の取り扱いについて

3年次のS・WⅢ(英語コミュニケーションⅢに組込)は、週1時間です。Native TeacherによるListening授業(日本人教員・・・アシスタント)を行います。リスニング能力向上に加え、英会話に慣れること、英作文技術向上を図ります。Native Teacherの自然な英語に触れ、クラスメイトとのペアワークを重ね、英語に対する興味・関心を高めましょう。10月以降は、各自がプレゼンテーションをできるように、テキストに特化しない内容で授業を進めます。SWの王道 大学入試4技能試験対応コア表現トレーニング上級編から、毎テスト10点分として出題します。

### 6. 学習サポート(事前・事後学習等について)

予習(分かる・分からないを区別)⇒授業(分からないところを確認)⇒復習(分からないところを理解)⇒演習(練習問題等で各種試験対策)の4本立てで、「黄金サイクル」を確立しましょう。予習では、単語・熟語の意味調べ、文法を含む文構造の理解に挑戦し、授業では、速読を重視します。復習は、その日のうちに!学習内容を確実に知識に変えましょう。演習は3～5回繰り返すこと。英作文にも挑戦し、Listening, Writing, Reading, Speakingと、4技能における全分野能力upを目指します。質問は休み時間、放課後、自宅からロイロ等で。皆さんの学習体勢を常に応援します!

科目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現Ⅲ	3	3	文系・理系

教科書名 be English Logic and Expression III Clear (いいずな書店) : 以下(b)と標記

副教材名 Grammar Collection 英文法・語法問題集 (いいずな書店) : 以下(G)と標記

### 1. 科目目標

① 言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を身につける。ここで言う論理的とは「筋道が立っている」ということを意味する。
② 基礎学力到達度テストや大学入学共通テスト等大学入試に対応できる英文法・語法の力を育成する。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
1 学 期	4月	(b) Lesson 1 A City Worth Visiting 街を紹介する (G) 2 受動態	【題材に関するタスク】 国内外の街に関する文章や街の課題に関する文章について、情報を整理し理解する。  【文法】 受動態 時制 助動詞 仮定法
	5月	(b) Lesson 2 Our Hometowns 生まれ育った街について話す (G) 1 時制 3 助動詞 4 仮定法	
	1 学期中間試験		
	6月	(b) Lesson 4 How Do You Spend Your Time? 時間の過ごし方 (G) 1 5 比較 (b) Lesson 7 Combatting Climate Change 気候変動について考える (G) 1 0 関係詞	【題材に関するタスク】 ひとり時間の過ごし方に関する文章や環境問題について、情報を整理し理解する。  【文法】 比較 関係詞 不定詞 動名詞
	7月	5 不定詞 6 動名詞	
1 学期期末試験			
【課題・提出物】 ・休業期間中の課題 (G) Review 1,2 重要イディオム I, II ・授業用ノート・プリント			
【1 学期の評価方法】			

定期試験素点：70%（1学期中間試験・1学期期末試験） 平常点：30%（提出物・小テスト・授業態度）		
月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
2 学 期	9月 (G) 7 分詞 (G) 8 動詞の語法① (G) 9 動詞の語法② (G) Review 3 (G) 重要イディオムⅢ (b) Lesson 8 Future Energy Sources これからのエネルギー	【題材に関するタスク】 再生可能エネルギー，洋上電力発電について，情報を整理し理解する。  【文法】 分詞 動詞の語法
	10月 2学期中間試験	
	11月 (b) Lesson 12 Helping to Fight Poverty 貧困のない世界へ  (G) 1 1 接続詞 (G) 1 2 前置詞  プレゼンテーション	【題材に関するタスク】 世界の貧困について，情報を整理し理解する。 プレゼンテーション例の情報を整理し，解決策を提案する。 構成に注意して，実際にプレゼンテーションする。  【文法】 接続詞 前置詞
	12月	2学期期末試験
	【課題・提出物】 ・休業中の課題 ・授業用ノート・プリント	
【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）		
月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
3 学 期	12月 (b) Optional Lessons Language Learning	ディベート
	1月	【課題・提出物】 ・授業用ノート・プリント
	【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（1学期中間試験・1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）	
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（定期試験素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点	評価方法
①知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，知識を増やしたり，技能を習得したりしている。	授業態度（積極性） 発言評価 課題提出 小テスト及び定期考査
②思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けている。	

③主体的に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力を身に付けたりしようとする取り組みの中で，自らの課題を解決していく姿勢を育成する。	
-------------	---	--

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

文法は長文を読み解く大切な要素です。基礎の復習を徹底して行ない，系統的に理解しましょう。  
演習問題は繰り返し学習することによって習得することができます。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
情報 I	1	3 学年	I・IIコース

教科書名 高校情報 I JavaScript (実教出版)

副教材名 ポイント整理 情報モラル (数研出版)

## 1 科目目標

- ①多様なコミュニケーションの実現，情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。
- ②様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用する力を養う。
- ③情報と情報技術を適切に活用するとともに，新たな価値の創造を目指し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ガイダンス</li> <li>● PC・教室利用について</li> <li>● PCの個人設定</li> <li>● タイピング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCの個人設定を行い，利用環境を整える。</li> <li>・タイピングソフトの利用の仕方を確認し，タイピングに取り組む。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アルゴリズムとプログラミング JavaScript</li> <li>● 処理手順</li> <li>● いろいろなアルゴリズム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの流れを構造的に図示できるフローチャートや処理手順について理解する。</li> <li>・JavaScriptプログラミングを行い，動作させることができる。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ネットワークの動作としくみ</li> <li>● 通信の仕組み</li> <li>● IPアドレス，ホスト名</li> <li>● プロトコル</li> <li>● インターネットの仕組み</li> <li>● ドメイン名</li> <li>● DNS サーバの役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信に必要な知識や用語を理解し，その仕組みや役割について理解できる。</li> <li>・インターネットの仕組みや各種機器の役割を理解し，実際に通信するための情報をネットワークから取得できる。</li> </ul>
	7	1 学期期末試験	
		<p>【課題・提出物】</p> <p>授業で配布する資料プリント，授業ノート</p> <p>実技演習課題</p>	
		<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。</p> <p>知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p>	

		② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ インターネット</li> <li>● WWW について</li> <li>● URL の概念</li> <li>● Web ページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り, Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。</li> <li>・ Web ページを便利に利用するため, 検索サイトの構造や使用方法について理解する。</li> <li>・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。</li> <li>・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し, 安全な利用法について理解する。</li> <li>・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し, 安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。</li> </ul>	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報セキュリティ 1</li> <li>● 不正アクセス</li> <li>● ファイアウォール</li> <li>● コンピュータウィルス</li> <li>● スパイウェア</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報セキュリティ 2</li> <li>● 情報の暗号化の仕組み</li> <li>● 共通鍵暗号方式</li> <li>● 公開鍵暗号方式</li> <li>● 電子署名, ハイブリッド暗号方式</li> </ul>		
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 表計算ソフト</li> <li>● 表計算ソフトの基礎</li> <li>● 計算式</li> <li>● 基本の関数</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し, 計算式や関数を使用して計算の自動化ができる。</li> </ul>
	12	2 学期期末試験		
<p><b>【課題・提出物】</b>  授業で配布する資料プリント, 授業ノート  実技演習課題</p>				
<p><b>【2 学期の評価方法】</b>  ① 学期末試験 50% 2 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。  知識・理解の確認とともに, タイピングの知識などを見る問題も出題する。  ② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。  ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 表計算ソフト</li> <li>● いろいろな関数</li> <li>● グラフ表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。</li> <li>・ グラフ作成の技術を身に付ける。</li> </ul>	



<p>【課題・提出物】 実技演習課題</p>
<p>【3学期の評価方法】 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。</p>

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート</li> <li>・実技演習課題</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技演習課題</li> <li>・プログラミング</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングテスト</li> <li>・プログラミング</li> <li>・授業時の取り組み</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>

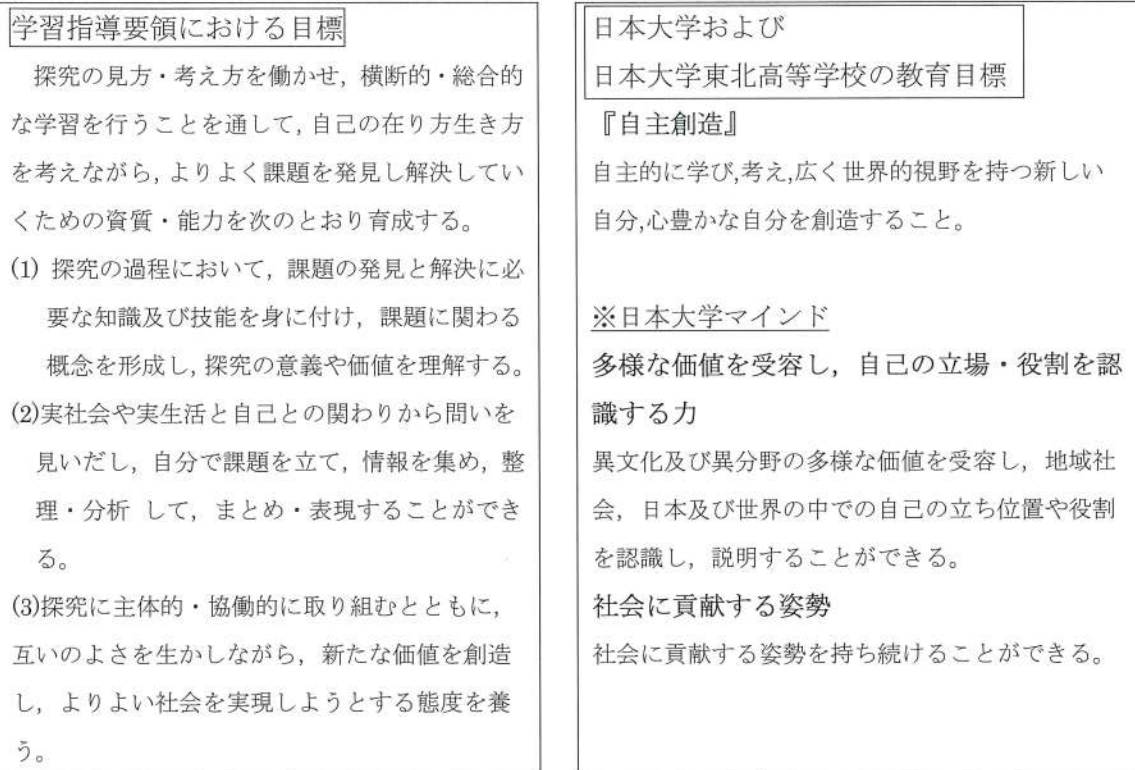
### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ、ブラインドタッチに挑戦しましょう。</li> <li>・実技については、毎時間課題を課します。時間ごとの内容を確認するのでしっかり覚えましょう。</li> </ul>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	3 学年	I コース全クラス

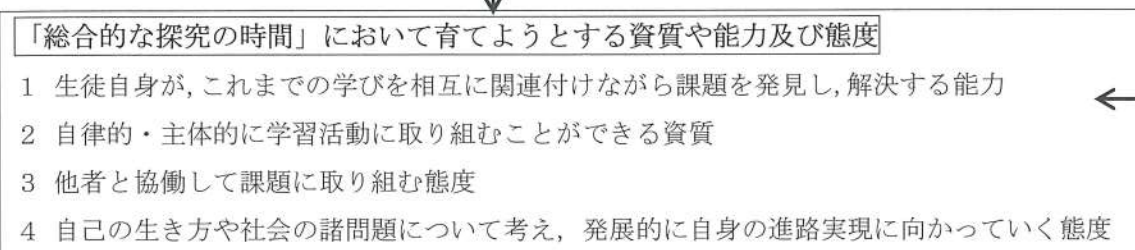
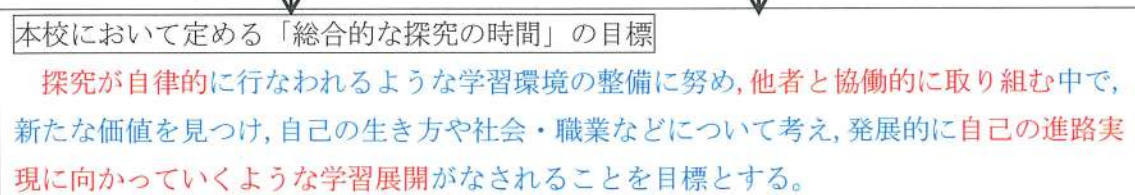
教材名 「ゼロから始める探究活動」 啓林館

## 1 科目目標



踏まえて

踏まえて



相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力

- 2 各学年の目標および探究するテーマ
- 1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。  
職業や自己の進路、キャリアに関するテーマ
- 2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する → ロハス探究
- 3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

### 3 学習計画及び評価方法

学期	回	活動内容	活動のねらい・留意点
1 学期	1	オリエンテーション 集会形式 (SAKURA ホール)	探究活動の意義や目的を知る。 探究活動の進め方を確認する。
	2	1 問いを立てる	
	3	テーマの絞り込み	興味関心からテーマを決める。
	4	「問い」を立てる	すぐに答えが見つからない「問い」を探す
	5		マジックワードに注意する
	6		
	7	中間発表	1学期の活動について振り返りを行う。
2 学期	8	2 情報の収集	
	9	計画の立案	仮説を立て、実証するために方法を計画する
	10	実験・観察	対照実験を心がける
	11	文献調査	調べ学習に陥らないようにする 複数の文献を用いる
	12	アンケート調査 インタビュー	対象者に偏りがないように注意する 求めている回答に誘導しないようにする
	13	3 整理・分析	情報の関係性を見つけ、結論を導く グラフやシンキングツールを利用する
	14		
	15	4 まとめ・表現	
3 学期	16	ポスター作成	図・表と文章をバランスよく用いる
	17		
	18		
	19		
	20		
	21	ポスター発表	聞き手とコミュニケーションをとることを意識する

#### 4-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p>	<p>学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p>
----------------------	--	--

4-(2) 評価基準（ルーブリック）

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
<p>知識・技能 知識・技能</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p>
<p>課題を発見する力 思考・判断</p>	<p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p>
<p>課題を解決する力 思考・判断</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をすることができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p>	<p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p>
<p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p>	<p>発表するための準備が不十分である。</p>
<p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p>	<p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p>